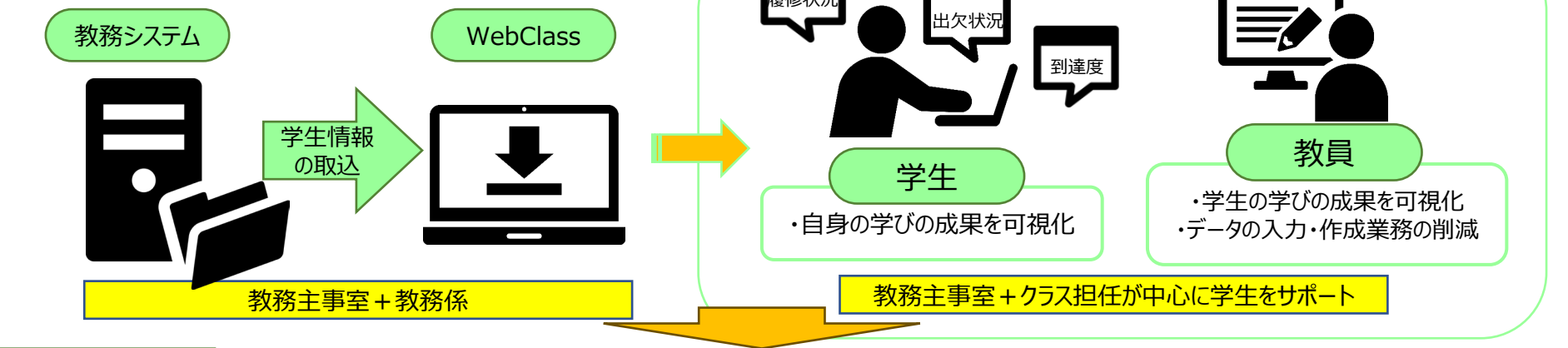


●実施概要

現 状	学生は自身の学びの成果（入学してからの成績）を学期末ごとに配布される通知表でしか閲覧することができず、教員も自身の担当科目の状況しか把握することができない。教務システム上の学生情報（学生基本情報・成績・出欠席など）は学生課担当者以外は閲覧できず、クラス担任によるフィードバックも困難である。
目 的	学生が自身の学修状況を把握できることを目的とし、教務システムのデータをWebClassに出力して①～③を目指す。 ①学生自身が履修状況および成績・出欠を確認できる。 ②教員が学生の成績・出欠を閲覧できる。 ③学生が定期的に目標の設定と達成の振り返りを行える“修学カルテ”（e-ポートフォリオ）を教員および学生が利用できる。

●取組内容と実施体制の説明



取組の成果目標 （アウトプット）	教務システムの登録データのWebClassへの出力可能データ数とする（本科生データ626件）。WebClassでの利用可能データ割合（％），視察調査の実施，講習会実施。WebClassへの教務データ入力時間の削減。
得られた成果指標 （アウトカム指標）	教務システムの登録データをWebClassへ連携し，成績・出欠・修学カルテを利用可能にする。（利用者：本科626名）
目的に対する成果指標の考え方	教務システムの登録データのWebClassへの利用可能データ割合（％）。視察調査の実施，教職員向け講演会の実施。